

進路だより

福島県立あぶくま支援学校
進路指導部通信 第3号
令和2年12月24日 発行



「実習を振り返って」

進路指導主事 若松 伸司

令和2年も年の瀬を迎え、今年もあと少しで終わろうとしています。年度当初は新型コロナウイルス感染症の影響から予定していた実習を実施できない状況でしたが、感染症防止対策をしっかりと行い、11月には中学部で8日間、高等部で10日間の実習を実施することができました。特に高等部2学年の生徒たちは、卒業後の社会参加自立にむけての大切な機会であることを各方面でご理解いただき、産業現場等における実習を60名の生徒たちが校外で体験することができました。集団での活動、校外での活動について制限がある中で実習を実施できたことは、自分を知る大切な機会を経験するという実習の目的を達成することができたと思っています。

現在、新型コロナウイルス感染症のため求人数や仕事の減少など大変な状況などが報道されています。厳しい状況ではありましたが、関係機関との連携を図り新規事業所の紹介を受けるなどの支援を受け、高等部3学年の生徒たちは進路決定のため12月末まで特別実習を実施し、粘り強く頑張る様子が見られました。

年が明けると3学期となります。今年度の学習についてのまとめをし、これから児童生徒一人一人の自立と社会参加を目指すためにどのような力をつけていけばよいか保護者の皆さんとともに課題を整理し、力を合わせ次のステップへ進んでいければと思います。



「 中学部 後期校内実習を終えて 」

11月11日(水)～11月20日(金)の8日間、後期校内実習が行われました。2・3年生で編成された「木工班」「紙工班」「家庭班」「工芸班」の4つの班に加えて、1年生も「基礎作業班」として実習を行いました。今年度は新型コロナウイルス感染症予防対策のため、5日間行う前期校内実習が中止となり、日数を段階的に増やす例年と違い、いきなり8日間という長い実習となりました。その中でも各班で「集中・丁寧」などの目標を掲げ、最後まで根気強く取り組むことで、心のこもった製品を作ることができました。今回の経験は、今後の作業学習だけではなく、将来への進路実現におけた一歩となりました。

中学部3年 男子生徒「木工班」

木材の「磨き」作業では、磨く面を手で触れて確認しながら、滑らかになるまで磨くことができました。



中学部1年 「基礎作業班」

グループに分かれて、小物入れづくりやしおりづくりに取り組みました。決められた時間まで、集中して作業に取り組むことができました。



後期産業現場等における実習

11月9日（月）から11月20日（金）までの10日間、高等部2年生が産業現場等における実習を行いました。

今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、今回は初めての校外での実習となりました。コロナ渦の中、企業や福祉サービス事業所の方々にさまざまな御配慮をいただき、生徒たちは無事に実習を終えることができました。通勤や勤務時間、実際のお客様との接し方、忙しさや製品・商品の扱い方など実際の仕事を通して、多くのことを学ぶことができた良い機会となりました。



一般企業での実習では、下記の皆様に御協力いただきました。

株式会社ローズ・ビルサービス様、ヤマト運輸株式会社様、ウエルシアオアシス株式会社様、株式会社トレンビュー様、郡山市保健福祉部障害福祉課様、株式会社ウィルオブ・ワーク様、株式会社東日様、保土谷化学工業株式会社様、添田商事株式会社様、丸光産業株式会社様、テクノメタル株式会社様、有限会社黒羽工務店様、ありがとうございました。

障害福祉サービス事業所での実習については、郡山市、須賀川市、二本松市、三春町、大玉村などの、35の事業所の皆様の御協力をいただきました。ありがとうございました。



後期校内実習

後期産業現場等における実習と同期間に、高等部1、3年生を中心とした生徒が校内実習を行いました。

前期実習とは異なり、多くの生徒が日頃の作業学習の班から離れて新たな班で実習を行いました。校内と言ってもそこは「職場」という意識をもち、緊張感をもって活動に取り組む姿が見られるようになってきました。

